

宗 吉 瓦 窯 跡

—平成8年度試掘調査報告書—

1997年3月

三野町教育委員会

はじめに

平成3年度、ほ場整備事業に伴う調査で7基の窯跡の存在が確認され、藤原宮の瓦を焼いていたことが判明した宗吉瓦窯跡は、平成8年9月、正式に国の史跡として指定を受けました。このような貴重な文化財は当町における大きな宝であり、子供たちの郷土愛を育むためにもぜひ保存し、有効に活用してゆきたいものです。

三野町としては今後、この歴史的遺産を活用し、街づくりに生かすために、多くの人々に親しまれるような史跡公園として整備してゆく予定です。瓦生産の様子や畿内との関係を学習でき、白鳳時代を生き抜いた瓦工人の心意気を体感できるような施設ができればと願っています。

その前段階として、平成8年度は国庫補助事業である「町内遺跡発掘調査事業」の適用を受け、史跡内とその周辺部の調査を行いました。今回の調査の主な目的は工房跡および窯跡の数の確認でしたが、特に斜面部の畠では開墾中に焼土が確認されており、以前から窯跡の存在が想定されていました。寒空の下で行われた調査の結果、期待通りに新たに5基の窯跡が確認されました。

小規模な試掘調査ではありましたが多くの知見が得られ、これからの方針を定めてゆく上での極めて重要な成果となりました。調査に御協力下さった皆様に心より感謝いたします。また、今後もより大きな成果が上がることを期待し、町民をはじめとする多くの人々が歴史と文化に親しむ機会を持つことを願ってやみません。

平成9年3月

三野町教育委員会
教育長 藤田明美

例　　言

1. 本書は、三野町教育委員会が平成8年度国庫補助事業として、三豊郡三野町大字吉津字宗吉甲155-1ほかで実施した発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査の実施にあたっては、香川県教育委員会が現地における調査指導を行い、三野町教育委員会が主体となって実施した。
3. 調査期間は1996年12月11日～1997年3月17日までの実働20日間である。
4. 調査は香川県教育委員会事務局 文化行政課 主任技師木下晴一氏の指導を受け、三野町教育委員会 文化財担当主事 白川雄一が担当した。
5. 調査、遺物整理に際しては次の方々の参加を得た。(敬称略、順不同)
〔調査〕 丸岡薰、和泉久雄、小野譽富、小野正晃、小野良幸、
　　丸岡昭夫、綾章臣、小野孝
〔整理〕 小野節雄、坂本ミツル、岡子誠治、横田ゆう子、丸岡幸代
6. 発掘調査及び整理・報告書の作成にあたっては香川県教育委員会・地元の方々をはじめとする諸機関・諸個人からの御協力を得た。記して謝意を表します。
7. 調査関係者は次のとおりである。

町長	安藤幹夫	吉津地区老人会長	丸岡邦利
町議会議長	細川正一	教育委員	小野譽富
町議会議員	中川幹夫	土地所有者	和泉金作
町議会議員	福岡和助	土地所有者	田井学
役員	山本文重	片山地区自治会長	和泉久雄
建設課長	小野憲三	宗吉地区自治会長	丸岡彰
総務課長	細川健治	国川池水利組合総代	綾敬三
教育課長	加賀宇由基	国川池水利組合総代	閑守
8. 本書挿図中のレベル高はすべて海拔を表す。
9. 挿図の一部に、建設省国土地理院発行の50000分の1地形図「仁尾」及び「觀音寺」を使用した。
10. 本書の執筆・編集は白川が担当した。

本文目次

第1章 調査に至る経緯と調査の経過.....	1
第2章 立地と環境.....	2
第3章 調査の概要.....	2
第4章 調査のまとめ.....	4

図版目次

図版 1 宗吉瓦窯跡周辺の遺跡分布図	写真図版 4 (1) 12号窯検出状況
図版 2 宗吉瓦窯跡周辺の地形図	(2) 13号窯検出状況
図版 3 トレンチ配置図	写真図版 5 (1) 14号窯検出状況
図版 4 4トレンチ拡張部平面図	(2) 15号窯検出状況
図版 5 1・2・3トレンチ土層断面図	写真図版 6 (1) 16号窯検出状況
図版 6 5・6トレンチ土層断面図	(2) 15号窯灰土検出状況
図版 7 4トレンチ土層断面図	写真図版 7 (1) 4トレンチ埋戻し作業風景
写真図版 1 (1) 宗吉瓦窯跡と三野津平野と瀬戸内海	(2) 4トレンチ埋戻し後の状況
(2) 6トレンチ掘削状況	写真図版 8 (1) 5トレンチ掘削状況
写真図版 2 (1) 3トレンチ掘削状況	(2) 6トレンチ掘削状況
(2) 6トレンチ掘削状況	写真図版 9 (1) 押挽き重弧文軒平瓦
写真図版 3 (1) 窯跡群検出状況	(2) 向接合面
(2) 窯跡群検出状況	写真図版 10 (1) 丸瓦・平瓦
	(2) 玉縁式丸瓦裏面

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

調査に至る経緯

平成3年度の発掘調査によって藤原宮同範軒丸瓦が出土した宗吉瓦窯跡は、その歴史的重要性が注目され、平成7年3月20日、町指定史跡に指定された。

平成3年度以降の調査の経過については、平成5年度、町道建設に伴う試掘調査により6号窯の北側に新たに2基(8・9号窯)の灰原が発見された。その後の分布調査によってミカン畑の斜面部に1基(10号窯)の所在が知られることとなり。さらにその南側に位置する国川池取水口の壁面にも1基(11号窯)の断面が確認され、窯跡の总数11基が知られることとなった。

地元の要望・香川県からの指導もあり、平成8年9月10日、工房跡の所在が想定される範囲を含めた約5103m²が国史跡として指定を受けた。三野町は今後、宗吉瓦窯跡を史跡公園として整備し、有効に活用していくため、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査事業」の適用を受け、平成8年度から三年間の継続事業として、工房跡を含めた遺跡の範囲及び窯跡の总数を確認するための調査を行うこととなった。

また、今回の調査における文化財保護法の発掘に関する届出等については以下のとおりである。

- ・平成8年11月22日付平8発三第1029号にて史跡の現状変更許可願を提出。
- ・平成9年1月24日付委保第4の1248号にて現状変更の許可通知受諾。

調査の経過

発掘調査は平成8年12月11日に着手し、平成9年3月17日に作業を終了した。その経過については以下の発掘調査日記抄に記す。

8. 12. 11 発掘器材搬入。テント設営。皿池南側の水田(宗吉甲153)中央部に1トレンチ掘削。

1. 1. 12 宗吉甲153(国川池より)に2トレンチ掘削。土層断面図、トレンチ配置図作成。発掘器材、テント搬収。

9. 1. 27 発掘器材搬入。皿池南西部のミカン畑斜面部に3・4トレンチ掘削。

1. 2. 8 斜面掘削方向の土層を確認するため、4トレンチに東西方向の拡張部設定。

1. 3. 0 14・15号窯検出。

2. 1. 0 10・12・13・16号窯相次いで検出。

2. 1. 1 13号窯上部でトレンチ壁面崩落。復旧作業を行い、法面をつける。

2. 1. 3 10号窯上部でトレンチ壁面崩落。法面をつけ復旧。

2. 1. 8 三野町議会公教厚生委員会現場視察。10

～16号全景写真撮影。13・14・15号窯、各窯を写真撮影。土層断面線引き。

2. 1. 9 10・12号窯写真撮影。

2. 1. 20 16号窯写真撮影。

2. 2. 3 地元である宗吉・片山の2地区の住民、文化財保護委員会を対象に現地説明会を開催。教育課長、吉津地区町議会議員も出席し、約100名の参加を得た。終了後、トレンチの形を平板実測。

2. 2. 4 上層断面図作成。

2. 2. 8 14号窯以南埋め戻し。東西方向拡張部写真撮影、土層断面図作成。器材搬収。

3. 1. 3 15号窯、4トレンチ東西方向拡張部埋め戻し。発掘器材搬収。

3. 1. 4 文化庁田中哲夫主任調査官現場視察。

3. 1. 7 16号窯埋め戻し。現地調査終了。

第2章 立地と環境 (図版1~2)

三野町は香川県西部に突き出た莊内半島の付け根に位置し、西と南は七宝山の山塊、東は弥谷山、火上山などに囲まれた盆地である。三野津平野の大半が江戸時代前期の干拓によって埋め立てられたものであり、室町時代以前には海が大きく入りこんでいた湾であったと思われる。現在、三野町内には浅津、砂押、西浜、津の前、汐木などの海にちなんだ地名が弧を描くように存在しており、地元の人の話によるとそのあたりの田を深く掘削すると、貝殻等が見つかり、水がわき出すという。古三野津湾の外縁には傾斜の緩やかな洪積台地、扇状地がみられ、その外周を解析溶岩台地に起源を持つ山々が取り囲む。

宗吉瓦窯跡は七宝山塊の一角をなす山条山の北東麓の東向き傾斜面に位置する。現在窯跡の存在が確認されている地番・地目は大字吉津字宗吉甲145-2(池)、甲157(山林)、甲158(墓地)、甲154-1(田)、甲155-1(畑)である。

三野町においては現在のところ所在が明確な遺跡は少ないが、火上山の麓には現在のところ8基の須恵器を焼いた窯の所在が確認されており、これらの窯業の基盤が宗吉瓦窯跡に受け継がれているものと思われる。

第3章 調査の概要

調査区の設定(図版3)

今回の調査区は平成3年度に灰原が確認された皿池の南方に位置する。遺構の広がりを確認する目的で、皿池の南部に位置する宗吉甲153(水田)に2箇所(1・2トレンチ)、窯跡の総数を確認する目的で東向きの斜面部である宗吉甲155-1(畑)に3箇所(3・4・5トレンチ)、国川池西岸の斜面山條丙1-2(山林)に1箇所(6トレンチ)の合計5箇所の調査区を設定した。

層位(図版5~7)

水田部では以前に段差のある2枚の水田を合筆しており、人為的に掘削・土盛が行われたことが推定される。1トレンチでは地表下約80cmの深さで灰土・瓦片・窯壁片を含む層が検出されたが、これらは暗灰黄色の砂混シルト層の中にブロック状に包含されており、窯跡の灰原の土が掘削されたものと推測される。また、基盤層は約140cmの深さで確認できた。2トレンチでは平成5年度の試掘調査の際に確認された谷筋に連なると考えられる基盤層の落ち込みを確認した。

ミカン畑の斜面部に設定した3・4・5トレンチは、表土、後世の開墾等により人為的改变を受けた上層と、国川池渡せつ土層、窯付近の土が痩せた後に流れ込んだと思われる流土層、基盤層に大別することができる。上層は窯付近では古瓦片・窯体片を多く含む。流土は15号窯・16号窯付近で認められる。池渡せつ土層は10号窯付近から堆積が確認され、南に向かって徐々に厚さを増している。国川池の土手際に設定した5トレン

チでは約2mの厚さで堆積していることが確認できた。基盤層は北側では縦混黄褐色土であるが、13号窯以南からは、徐々に水分が多く含まれるようになり、10号窯から2～3m程南の部分からはグライ化し、暗緑灰色を呈している。

国川池西岸の山林に設定した6トレンチの土層は表土、流土、基盤層に大別できる。トレンチ北端部では池取水口を掘削した際に掘り込まれた基盤層の落ち込みが確認できた。

遺構（図版3～7）

斜面部の畠では6基の窯跡（うち1基は以前に分布調査で確認済み）の存在が確認できた。10・12・13・14号の各窯は天井部が崩落しており、15・16号窯は天井部が残存する。南北方向のトレンチで検出された各窯の部分についてはその傾斜等から判断して、煙出しに近い焼成部と考えられる。向各窯の中軸線の間隔は約3.5mであり、平成3年度の調査で確認された1～7号窯と同様、ほぼ等間隔に並んだ窯跡群であると考えられる。

窯跡の構造に関しては、いずれも窯体の検出にとどめ、床面まで掘り下げていないため、その内部構造については不明であるが、天井部にスサの混入が認められないこと、4トレンチ拡張部において、15号窯天井部の赤色酸化層中に基盤層である黄褐色粘質土の混入が確認できたことから、花崗岩の基盤層をトンネル状にくり貫いて構築した全地下式構造であると推定される。

4トレンチ拡張部では15号窯天井部（燃焼部か？）が後世の掘削により大きく破壊されていることが確認できた。また、木炭粒を多く含んだ灰土の層を平面的に検出した。

出土遺物（写真図版9・10）

遺物は古瓦片がコンテナに1箱、窯体片がコンテナに20箱程度である。全てが後世の開墾により改変を受けた上層部から出土したものである。今回の調査の性格上、遺構内の遺物は取り上げていない。

古瓦の大半は平瓦であり、焼成の悪いものが日立つ。側面の形状は△形とコ字状があり、総じて調査は丁寧である。出土状況を観察すると、分布の濃淡はあるものの、ほとんどの窯跡に両者が存在していると考えられる。

14号窯付近では押挽き四重弧文軒平瓦の破片を1点表面採集した。頸は粘土板貼付段頸。成形、調整は丁寧である。焼成は良好、堅致である。平瓦との接合部分ではがれており、接合面には布目が観察される。

第4章 調査のまとめ

1. 今回確認された窯跡群は平成3年度に確認された7号窯の南約20mに位置している。窯跡群の分布が2群に分かれる意味に付いては、①築造年代の違い。②瓦工集団の違い。③瓦制作に関連する何らかの作業空間の存在。等の仮説が考えられるが、今後の調査により新たな知見が得られるものと考える。また、これまでに確認された窯跡の総数は16基となり、極めて大規模な窯跡群であることが判明した。
2. 工房跡に関する遺構は確認できなかつたが、窯跡群の規模から考えてもかなりの面積を有することが推測される。
3. ミカン畑の南部分には解析谷の存在することが確認できた。国川池渡せつの際に、大量の土砂をこの畑に盛ったことが伝えられている。国川池の取水口北壁面には11号窯の断面が観察できるが、先述の知見を加味すれば、11号窯の焚口は現在の国川池の土手に埋没していることが想定される。また、解析谷を取り巻くような窯跡群の存在も想定できる。
4. 窯の構築された時期については、出土遺物から判断して1～9号窯とほぼ同時期と考えられる。
5. 畑を開墾した際に焼け土が検出されたことが伝えられており、窯跡は大きく破壊を受けていると考えられていたが、窯の残存状況は想像していたよりもはるかに良好であり、窯の内部にはなお多くの瓦が残っていると思われる。
6. 今後は旧地形を考慮し、さらに未発見の窯跡と工房跡の発見に努めることが必要である。

〈参考文献〉

- 1 二野町教育委員会『宗吉窯跡』1992年
- 2 三野町教育委員会『大原塚古墳』1988年
- 3 香川県教育委員会『香川県埋蔵文化財調査年報』1994年

図 版



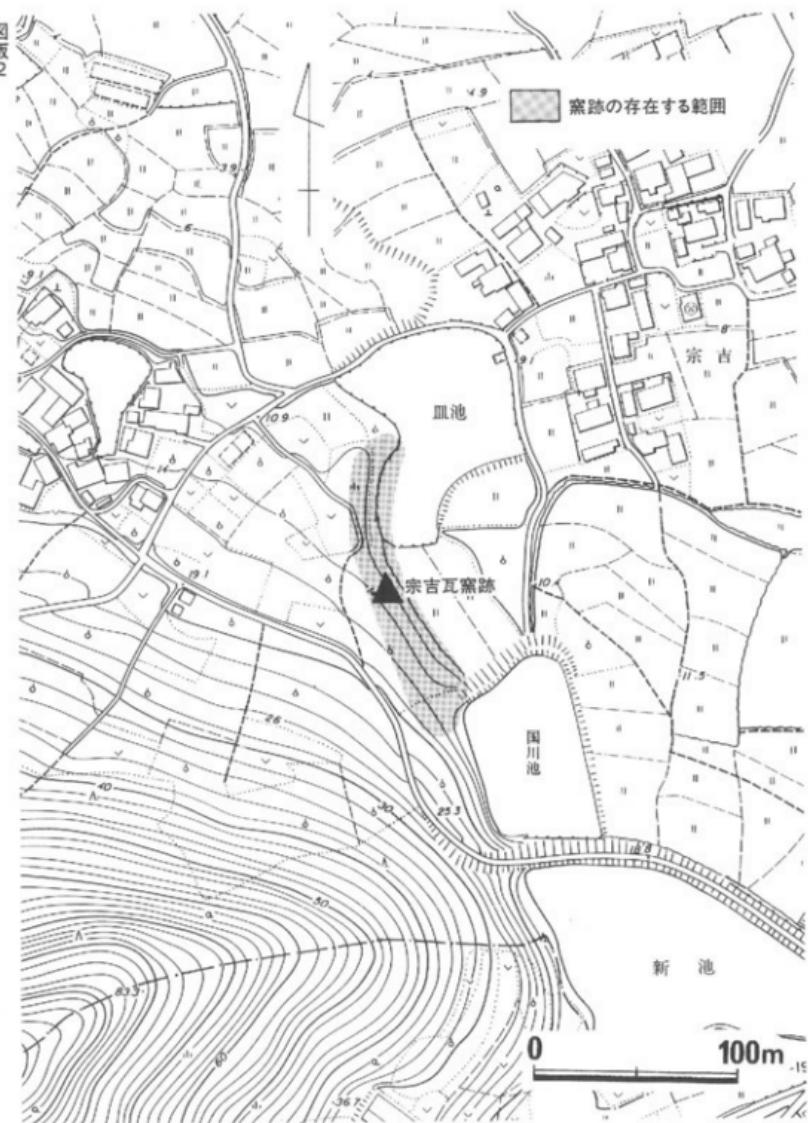
(三野町教委1992より)



- 1 宗吉瓦窯跡（瓦窯、白鳳）
 2 瓦谷窯跡（須恵器窯、古墳後期）
 3 汐木原古墳（円墳、後期）
 4 大原塚古墳（円墳、後期）
 5 金蔵古墳（横穴式石室）
 6 三野古窯跡群（須恵器窯、古墳後期）
 7 伊予神社境内柱跡（平安時代？）
 8 旧跡護岐沙木港
 9 銀神塚
- a. 道免1号窯跡
 b. 道免2号窯跡
 c. 大平窯跡
 d. 手石場窯跡
 e. 男谷窯跡
 f. 原上窯跡
 g. 野田池東岸・北岸窯跡

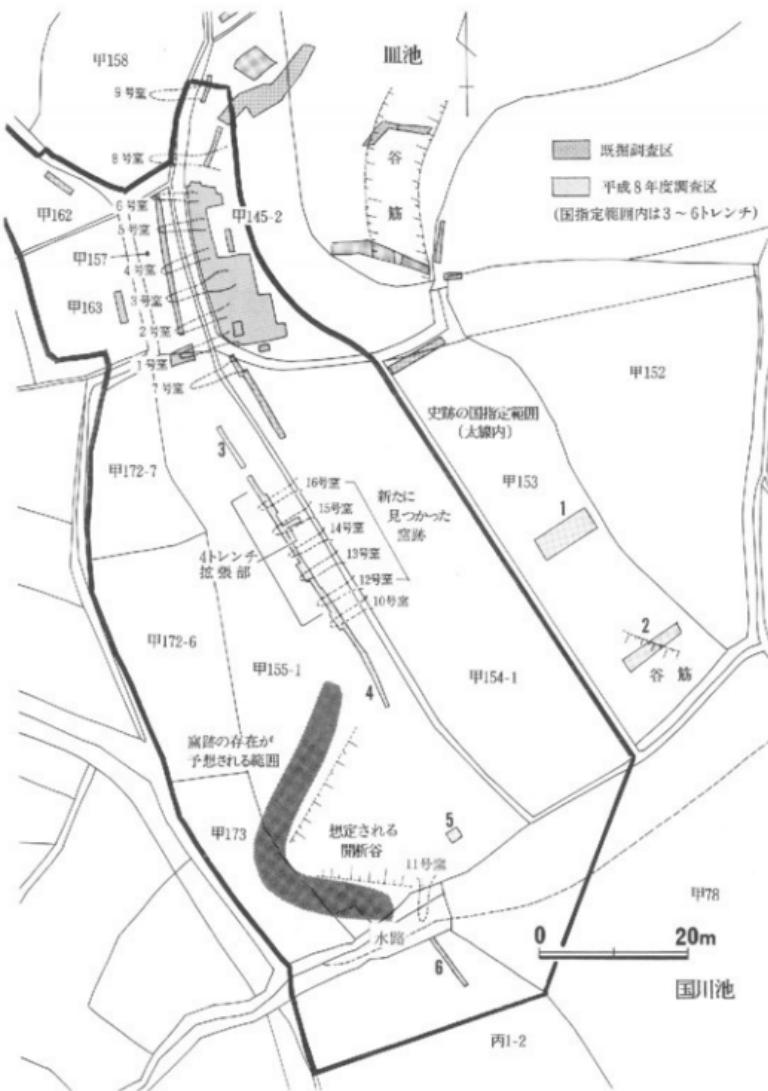
標高5m以下の範囲

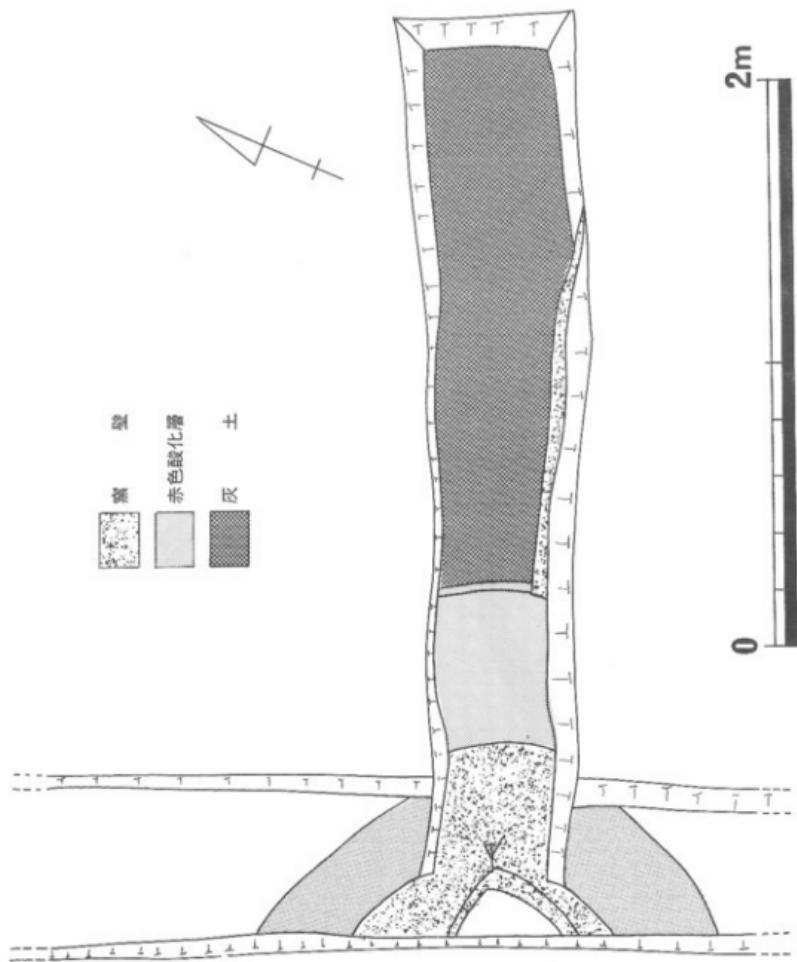
宗吉瓦窯跡周辺の遺跡分布図 (1:50,000) (三野町教委1992を一部改変)



宗吉瓦窯跡周辺の地形図 (1:2,500)

図版3

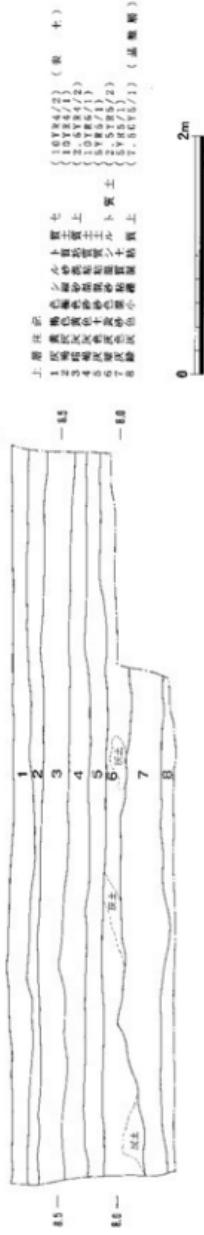




4トレンチ拡張部平面図

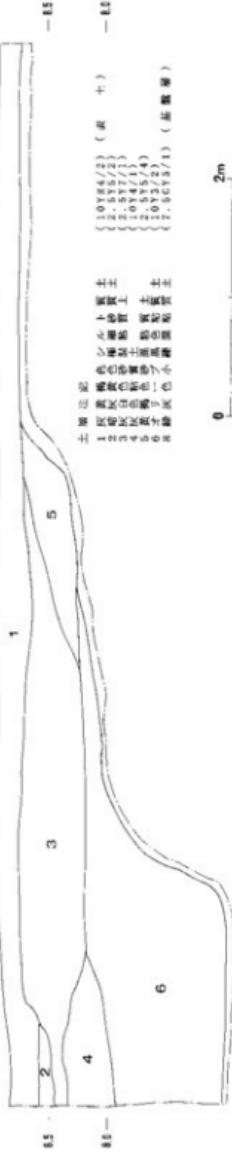
第1トレンチ北壁

西 東



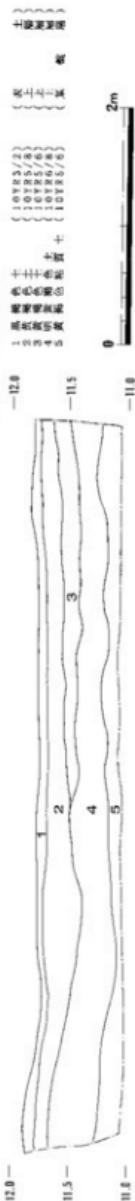
第2トレンチ北壁

西 東



第3トレンチ西壁

南

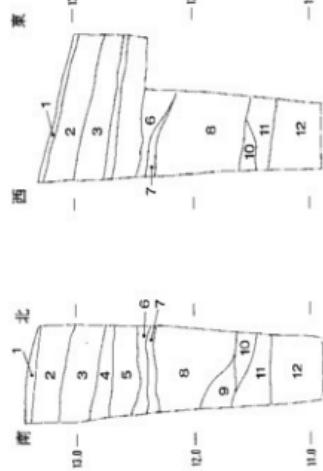


土層断面図

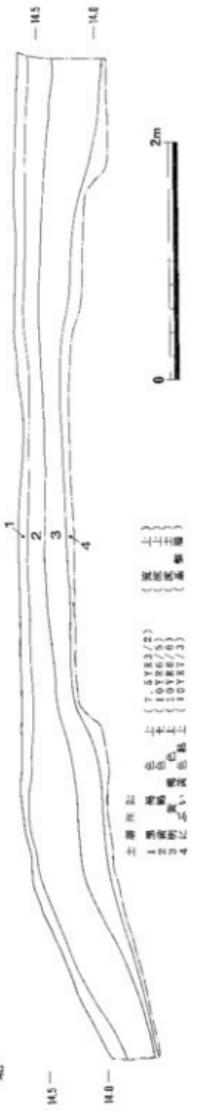
UT西面

図版の

第5トレンチ西壁

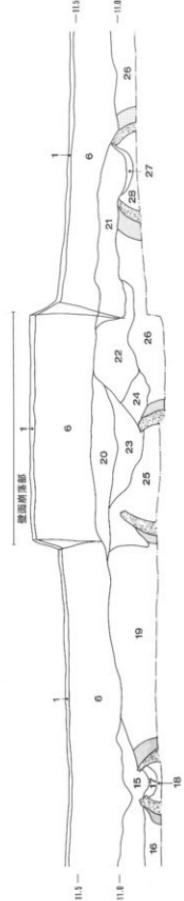
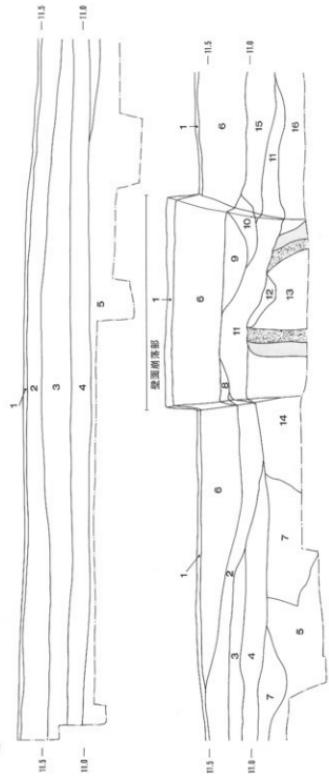


第6トレンチ東壁セクション



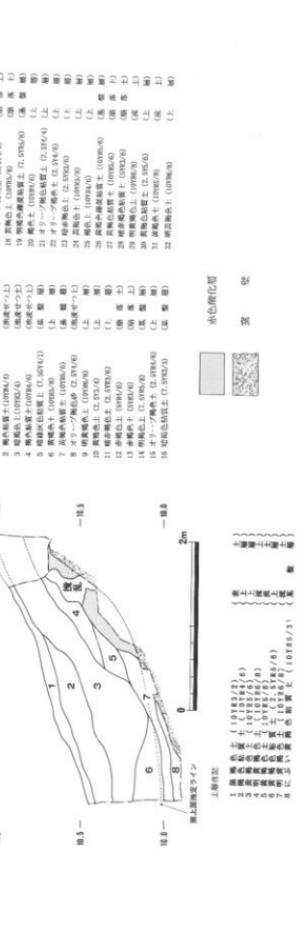
第4 レンチ断面図

北



第4 レンチ断面図

東



土壠断面図

写 真 図 版



(1) 宗吉瓦窯跡と三野津平野と瀬戸内海（鎌神山から）



(2) 斜面部調査区全景（南東から）

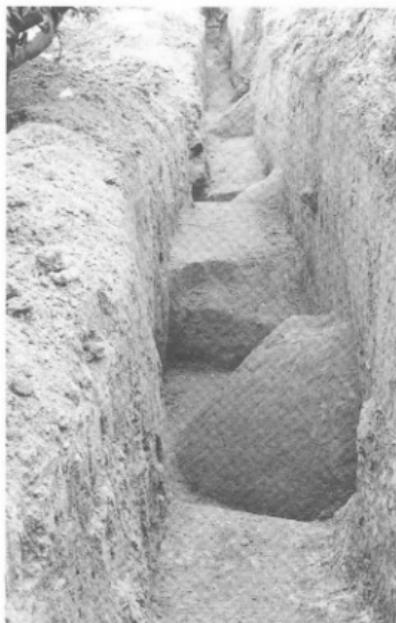


(1) 3トレンチ掘削状況（南から）

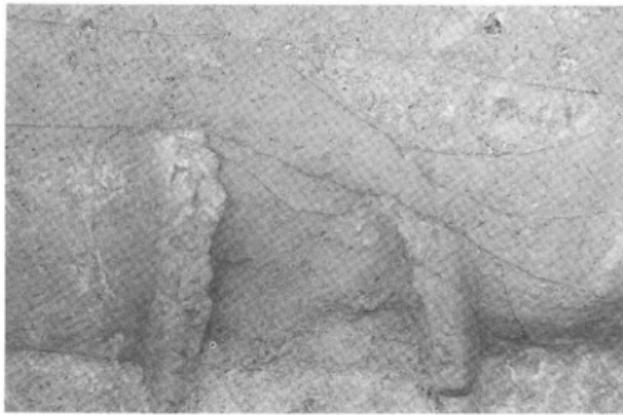
(2) 窯跡群検出状況
(南から)

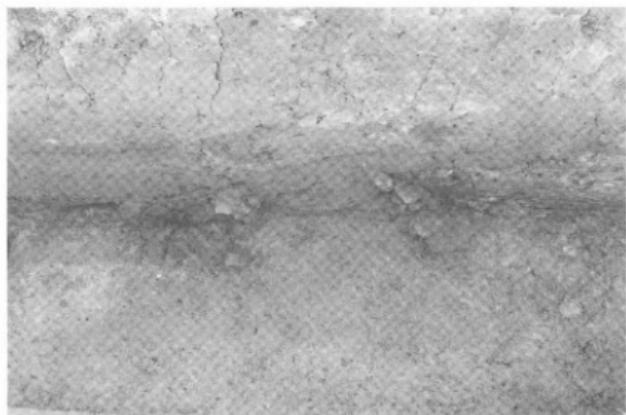


(1) 窯跡群検出状況
(北から)

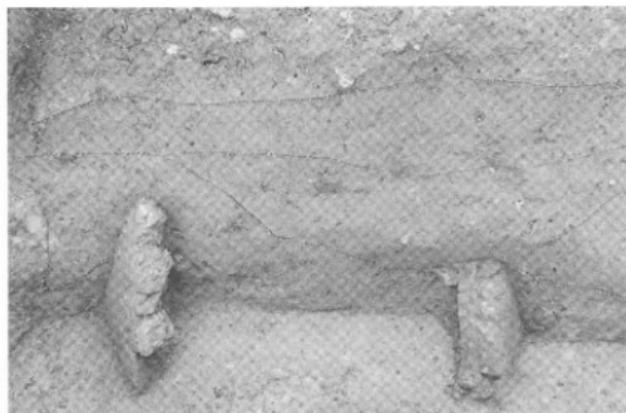


(2) 10号窯窯体検出状況 (東から)





(1) 12号窯窯体検出状況（東から）



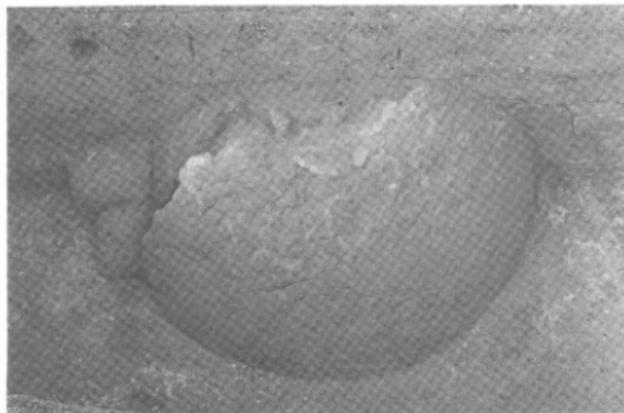
(2) 13号窯窯体検出状況（東から）



(1) 14号窯窯体検出状況（東から）

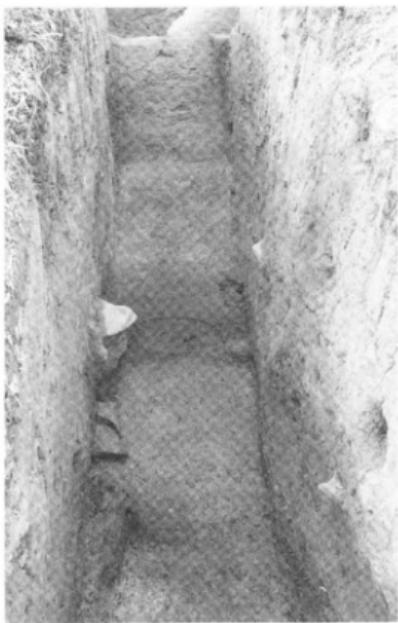


(2) 15号窯窯体検出状況（南東から）



(1) 16号窯窯体検出状況（東から）

(2) 15号窯灰土検出状況
(東から)



(1) 4トレンチ埋戻し
作業風景（北から）



(2) 4トレンチ埋戻し後の状況（北から）



(1) 5 トレンチ掘削状況（南東から）

(2) 6 トレンチ掘削状況
(南から)

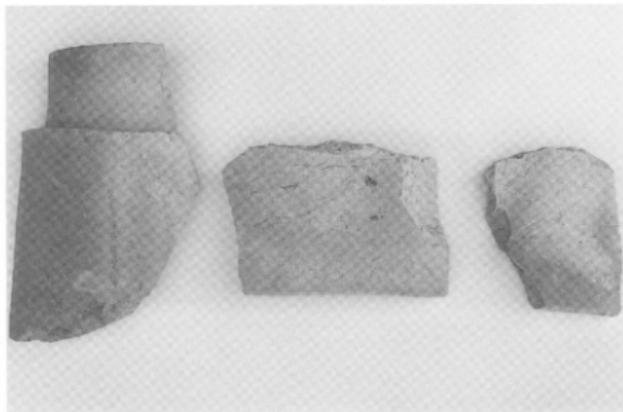




(1) 押挽き四重弧文軒平瓦



(2) 同平瓦接合面



(1) 丸瓦（左）・平瓦（右2点）



(2) 玉縁式丸瓦裏面

宗吉瓦窯跡

平成9年3月31日

三野町教育委員会

香川県三豊郡三野町大字下高瀬568
電話 0875-73-3120

印刷 株式会社マルモ印刷所